

にじいろ～165色の輝き～

令和4年度 2年生学年通信

号外

国語でビブリオバトルを行いました！

国語の授業で、「知的書評合戦ビブリオバトル」を行いました。ビブリオバトルとは、「人を通して本を知る。本を通して人を知る。」をキャッチコピーとした本の紹介コミュニケーションゲームです。各クラスで「チャンプ本」が決定しましたので、紹介します。春休みの読書の参考にしてください！



「生き物の死にざま」 山下蒼翔
どう生きるかではなくてどう死ぬかを考えたことはありませんか。僕は死ぬかなんて怖くて考えたいとは思いませんが、この本を読んだからは「僕はどう死ぬだろう。どうせ死ぬならもっと人生を楽しみたいな。」と生き方を考えるのと同じくらい死に様に向き合ってみるのも大切なかもしれないと思いました。



「52ヘルツのクジラたち」 三好花歩
題名の52ヘルツのクジラというのは他のクジラに声がとどかない世界で一頭だけの孤独なクジラのことです。この本は親に虐待された主人公キコ（人間）が、田舎で虐待を受けている美少年に出会ったお話です。この本を読むまで私は虐待や性差別に苦しむ人たちのことを遠くの出来事だと思っていました。でもそれは少し違って、遠くのことだと思っていたのは私が彼らの声にならない声を聞こうとしなかったからです。声を聞こうとすることが大切なのだとこの本は教えてくれました。少し聞くだけではシリウスで読みにくそうですが、ツンデレな主人公の恋愛模様も楽しめる作品です。あなたもきつと引き込まれます！



「かがみの孤城」 近藤佑太
みなさんは学校に来る幸せを感じたことはありませんか。困っている人がいたら助けていますか。この質問で少しでも迷いを感じたら、この本を読んでほしいです。僕はこの本を友達に勧められて開いてみました。本のページ目には孤城についての説明があつて、複雑なかなと興味を持ちました。中学生の「こころ」は学校でいじめられて閉じこもっています。ある日部屋の鏡が光り出し別世界に吸い込まれます。そこはお城で見知らぬ中学生と出会います。彼女たちはオオカミの少女に願ひの鍵について告げられます。いじめがどれだけ悪いかがわかるのでぜひ読んでみてください。



「私は私のままで生きることにした」 矢野アイル
この本の中で、ある男性が女性に対し、「僕があなたに点数をつけるなら」と男性は自分の基準で女性を評価し、見下しています。ですが、この女性はその点数を聞いても落ち込むのではなく、「聞いてないし、知りたくもない。」と言いました。男性に自分を悪く言われようとそんなこと関係ないといっただけです。私はこの女性をカッコいいと思いました。皆さんもそう思いませんか。もし共感したなら、皆さんも自分らしく、私のままで生きたいと思っていける証拠ではないでしょうか。あなたはあなた、私は私。そんなメッセージを込められたこの本をぜひ読んでみてください。



「カラフル」 黒河大椰
この本のジャンルはファンタジーを含んだヒーロードラマです。死んだ僕の魂が天使によって抽選で選ばれ再挑戦のチャンスを与えられます。自分が死ぬ前に犯してしまった罪を自覚し反省すれば終了。だが、僕の魂には記憶がなかった。再挑戦が順調に進めば前の記憶を思い出せるのです。天使に導かれ、小林真という男の子の体を借りて自分の罪を思い出すべく毎日を過ごす、というストーリーです。なぜ真の体をかりられるのかの疑問、そして真の家族のお話、ちょっとした恋愛。生々しいところも多いですがファンタジーと思えない、世界に引き込まれる本です。何回読んで飽きることもない本です。ぜひ読んでみてください。